

虫と終令幼虫では、同じ葉を散布されても、影響力には差があり、害虫によっても、散布する葉の種類が違う為、年間数回(6~7回)に渡って、薬剤を散布した場合でも、強力な薬剤の時に遭遇しなければ、生き残る可能性が高いのではないだろうか。いずれにせよ薬剤が、ナガサキアゲハの幼虫に、どのような影響を及ぼすかは、筆者の知る限りではない。

6. おわりに

1966年5月28日赤穂市で採集された1♀から、岩村巖氏が採卵を試み、卵は得られたものの、無精卵なのか、ふ化には至らなかったことなどから考えれば、当地域内では、生息していたとしても、その数は非常に限られているものと思われる。

春型採集に関連して想像されたことは、ミカンの定植時期が春になっている為、苗木について来た蛹が、当地で越冬することなく羽化したとも考えた。しかし、苗木はすべて愛知県から仕入れている。春型の採集記録は、まだ数例でもあり、今後の調査により、毎年発見される可能性も残している。県下本州側での、春型採集記録と越冬中の蛹に伴い、食樹、気温等、土着の可能性を求めて調査を行ったが、結果的には、土着できるという決定的な材料が得られずに、この報告を終るのは残念である。しかしこの資料が、県下に於けるナガサキアゲハの分布調査の一資料となり得れば、この上ない幸せである。末筆ながら、この小文を書くに当り、貴重な文献を御恵与いただいた登日那明氏、若林守男氏をはじめ、春型採集データを提供して下さった岩村巖、尾崎勇、広利雅美の諸氏、ならびにナガサキアゲハの幼虫をお譲りいただいた佐々木薫氏、ミカン関連事項、気温等細部に渡ってご教示下さった姫路測候所、姫路農林事務所、赤穂農協、県庁農産園芸課の方々深く感謝を申し述べる。

● 参考文献 ●

- 北村四郎・岡本省吾 原色日本樹木図鑑(1959)
保育社
初島佳彦 日本の樹木(1976)講談社
小笠原佐与市 ミカン栽培全科(1963)
農山漁村文化協会

- 山本広一 兵庫県下のナガサキアゲハについて1)
兵庫生物 Vol. 5 No 2 (1966)
岩村 巖 西播の蝶分布資料5)
兵庫生物 Vol. 5 No 5 (1968)
岩村巖・中谷貴寿 西播の蝶分布資料1)
兵庫生物 Vol. 4 No 2 (1961)
山本広一 兵庫県下に注目すべき数種の蝶(1)
MDK NEWS Vol. 20 No 3 (1968)
登日那明 淡路島の蝶相(1) 佳香蝶No. 26
名古屋昆虫同好会(1974)
福田晴夫・田中洋 鹿児島県の蝶生活(1967)
鹿児島昆虫同好会
長崎生物学会・長崎昆虫同好会 長崎県の蝶
(1973)
白水隆・黒子浩 標準原色図鑑 蝶・蛾(1966)
保育社
井手秀信 愛媛の蝶(1974)愛媛新聞社
原色日本昆虫生態図鑑 チョウ編(1972)保育社
川福昭人・若林守男 原色日本蝶類図鑑(1976)
保育社
(S.28:姫路市)

ギフチョウの赤紋消失 異常型の記録

相坂耕作

ギフチョウの後翅肛角部の赤紋が橙色に変わった個体で、おそらく兵庫県下でも一番早く珍しい記録であったものと思われる。
TSU・I・SO 115号によると尾崎氏発表で兵庫県下で1976年度に得られている。(筆者が飼育で1羽羽化は誤り)ただ文中劣性遺伝で1羽だけに出るとあるが、この個体は1975年度に採集した♀であり受胎板も形成しております。「日本産蝶類図鑑」(藤岡知夫著)によるとヒメギフチョウの赤紋消失型が図示されている。

データ……………(兵庫県三田市1975・IV・18)

S. 05:姫路市